【参考】第９次豊田市総合計画の方向性

令和５年１１月２０日
総合計画審議会参考資料2-1

序論

総合計画の意義

豊田市のまちづくりの羅針盤

変化の激しい社会(VUCA時代)において、常に施策の見直しを前提とする計画

策定にあたり重視するポイント

①「ひと」のつながりや活躍を支援し、新しい価値を創る計画
②様々な資源と先進技術を融合し、圏域をリードするまちを創る計画
③戦略性と弾力性のある計画

計画の構造

（仮称）ミライ構想
長期を展望して設定する**普遍的な**豊田市のまちづくりの**方向性**

（仮称）ミライ実現戦略2030
構想に基づき推進する**５年間**の豊田市のまちづくりの戦略

豊田市を取り巻く環境

ますます変化の激しい予測困難な時代の到来（VUCA※時代）

（※）変動性・不確実性・複雑性・曖昧性　の4英単語の頭文字をとった「未来の予測が難しい状況」を表す語

●中長期的な人口減少局面の進展、少子化・人生100年時代の進展	・まちの活力維持が困難になるリスク ・ポテンシャルを生かして、中長期的に拠点性を維持できる可能性
●コロナ禍を契機とした価値観・ライフスタイルの多様化の進展	・市内の多様な地域性を生かして、様々なライフスタイルを受け止められる可能性 ・地域社会との関係性が希薄となるリスク
●「モノの豊かさ」から「心の豊かさ（≒ウェルビーイング）」志向の高まり	・将来を担う子どもたちに、自己実現のための様々な選択肢を用意できる可能性 ・市民の主体的な関りを通じて、愛着・誇りの形成につなげられる可能性
●デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速、生成AI等の技術革新	・暮らしの質的な向上を実現できる可能性 ・技術革新により社会経済に予測不可能な劇的な変化をもたらす可能性
●産業構造の大転換、カーボンニュートラルの要請	・研究開発拠点の更なる機能強化の可能性 ・「100年に1度の大変革」の動向により、産業構造が大きな影響を受けるリスク
●持続可能な都市経営の必要性	・気候変動による大規模災害発生リスク ・公共施設老朽化に伴う財政的リスク

【仮称】ミライ構想の方向性（素案）

つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた

めざす姿

継承

●「つながり」を通じ、多様な価値や可能性を創出するまち

豊田市の多様な地域の資源を、愛着や誇りをもって守り、次代を担う子どもたちに継承する**持続可能なまちを実現するためには**多様な「人と人」「人と地域、自然」との**つながりを通じた「認め合い・気づき・学び合い」がますます重要。**

深化

●「チェンジ（変化）」と「チャレンジ（挑戦）」を繰り返し、しなやかに変化し続け、成長するまち

変化のスピードが速く、常に前提が変わっていく社会環境において、持続可能なまちを実現するためには、**まちを能動的かつ柔軟に変え続けていくことが重要**。そのために、あらゆる主体が**変化を積極的・前向きに受容**し、先進技術等も取り入れながら、**主体的に一歩踏み出せる**、心豊かな社会を実現していくことが必要。

まちづくりの基本的な考え方

発想の転換

- ●「個の充足・完結」から**「つながり・関係性の拡がり・深まり」重視**へ
- ●「ないものを補う」から**「あるものを生かす」**発想へ
- ●「足し算（積み重ね）に**「かけ算（組み合わせ）」思考**を
- ●「行政がリードするまちづくり」から**「多様な主体が楽しむまちづくり」**へ

３つの「変える」を意識

●見方を「変える」＜気づく＞
・思い込みや前提認識を変える。多様な価値観を認識し、認め合う。

●思考を「変える」＜考える＞
・常に社会潮流の変化を観察し、考え方を柔軟に変化させる。

●行動を「変える」＜行動する＞
・主体的に物事を捉え、行動につなげていく。

都市構造（裏面参照）

【仮称】ミライ実現戦略2030の方向性（素案）

「人」視点
- **学び合い**
- **地域共生**

「人を支える基盤（まち）」視点
- **経済**
- **都市基盤**
- **環境**

横断的な目標
- **こども**
- **愛着・誇り**

都市構造

本市は、広大な市域に市街地や集落が点在しています。人口減少や社会状況の変化に柔軟に対応しつつ、生活に必要なサービス機能を確保する拠点を中心に、それぞれの拠点を連携させ、将来にわたって安全で快適に暮らすことができる「まち」となる必要があります。
その実現に向け、全てを一極集中するのではなく、いくつかの拠点へ居住やサービス機能を緩やかに誘導しつつ、拠点等が公共交通や道路で結ばれた「つながるまちづくり」を目指します。

ミライ構想における都市構造の基本的な考え方

『コンパクト＋ネットワーク』

都市構造の実現に向けた方針

生活 **拠点への更なる機能集積により地域の活力と魅力を向上**
・コンパクト+ネットワークの深化、拠点間の交流促進、地域の活性化を図るため、拠点への都市・生活機能の集積

産業 **既存インフラを生かした産業集積による競争力強化**
・基幹産業の更なる発展とものづくり拠点としての強固な基盤を確立するため、インターチェンジ周辺等、利便性が高い地域への産業の集積

移動 **ヒト・モノの移動に欠かせない交通ネットワークの強化**
・広域な都市間・市内の拠点間の移動に係る連携機能を強化するため、安定的かつ効率的な移動を実現する交通ネットワークの強化

自然 **自然の保全・維持、次世代への継承**
・貴重な地域資源である森林･里山等の環境保全、優良農地を維持するため、農林漁業振興と調和したメリハリのある土地利用を推進

防災 **激甚化・頻発化する自然災害に対応する防災まちづくりの推進**
・災害リスクに対応するための防災・減災対策の推進、災害リスクを踏まえた土地利用の推進

【基本的視点】 多様な主体との連携 デジタルの活用

×

本市の魅力とポテンシャルを最大限に引き出すため
既存のインフラや都市・生活機能を徹底的に利活用

まちづくり の新たな視点

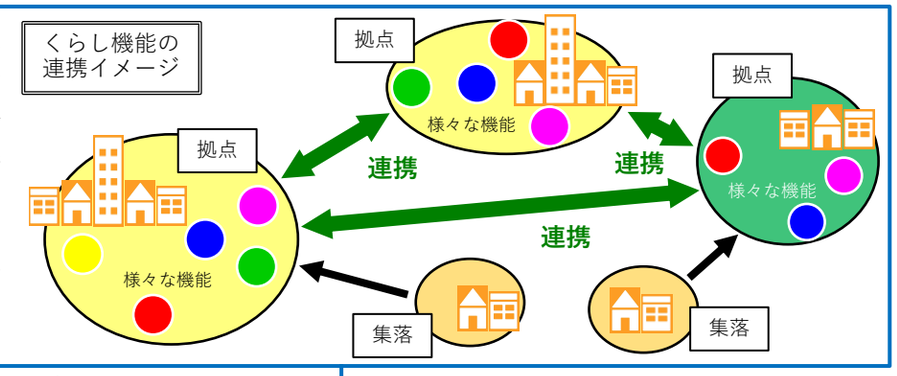
〇暮らしに必要な都市・生活機能を拠点間で連携
市域全体での<u>くらし機能の連携</u>

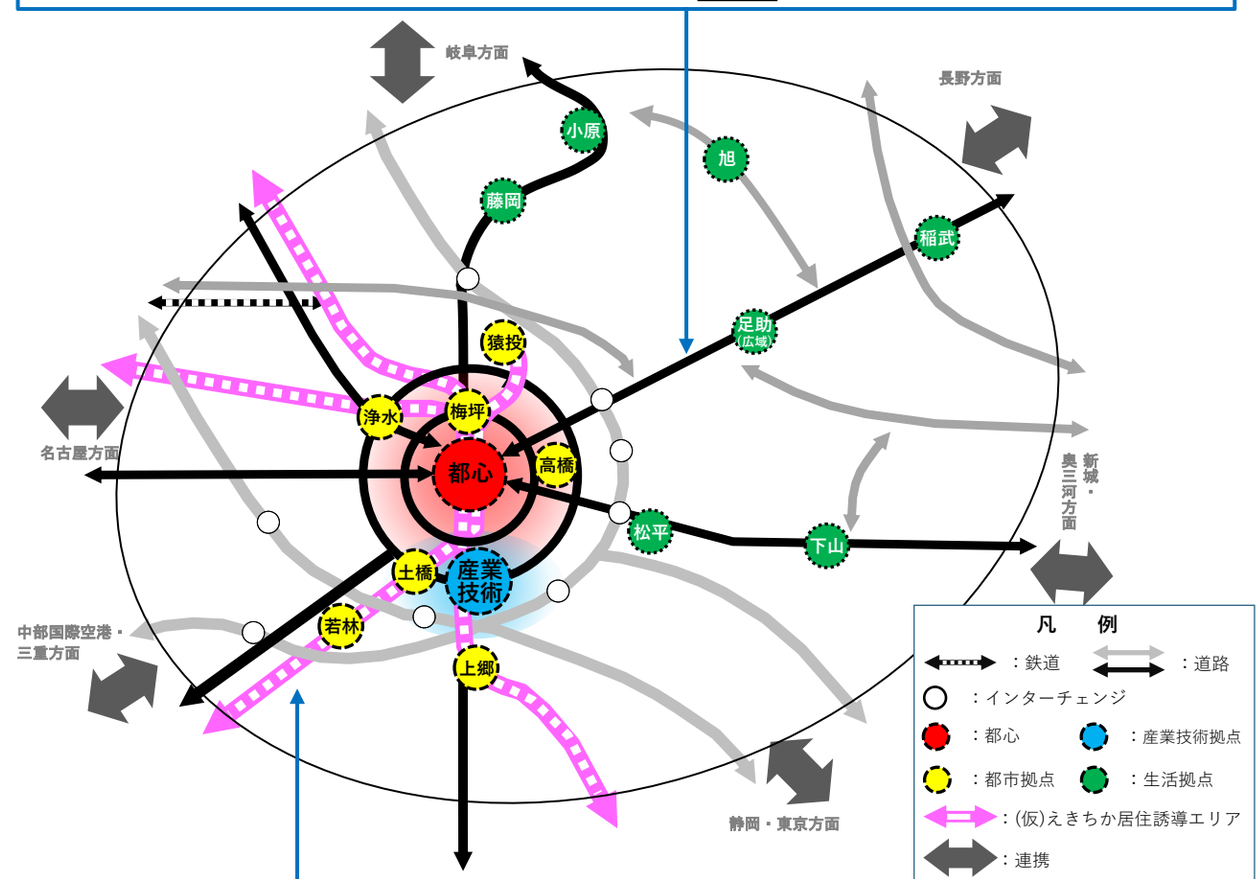
〇鉄道のポテンシャルを生かし、駅の立地特性に応じて居住を誘導
鉄道沿線に<u>『（仮）えきちか居住誘導エリア』</u>を設定

都市構造のイメージ

【くらし機能の連携】

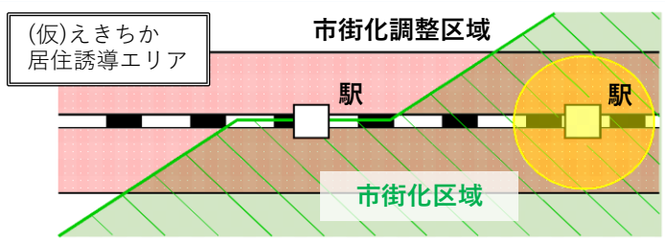
・将来に渡って安心して暮らし続けることができるよう、暮らしに必要な都市・生活機能を拠点間で連携するとともに、デジタルの効率的な活用により機能を確保





【(仮)えきちか居住誘導エリア】

・利便性の向上や地域活性化のため、鉄道の強み（都市間のアクセス性や円滑な市内移動）を最大限に生かし、市街化区域を基本とした沿線への居住を誘導



都　　心：都市･生活機能の更なる集積を推進、交通結節機能の強化
産業技術拠点：基幹産業の強化、生産研究機能の高度化、業務機能等の立地誘導、都市･生活機能の集積
都 市 拠 点：鉄道・バスの高水準な交通サービスの確保、都市･生活機能の集積
生 活 拠 点：山村地域の暮らしに必要な都市･生活機能の維持、関係人口創出を始めとした交流促進、加えて、足助は広域的な都市･生活機能を有する拠点として山村振興に必要な機能を確保

図はイメージであり、今後変更の可能性があります。